

## 第84回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和元年10月17日（木） 11：00－12：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、中須賀委員、松本委員、山崎委員

(2) 政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

松尾事務局長、行松審議官、鈴木参事官、滝澤参事官、中里参事官、星野参事官、森参事官、吉田参事官

外務省宇宙・サイバー政策室長 山地 秀樹

文部科学省研究開発局長 生川 浩史

4. 議事要旨

(1) 「令米国提案による国際宇宙探査への日本の参画」について事務局より説明を行い、宇宙政策委員会として原案どおり決定をした。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見 ●事務局からの回答)

○米国のアルテミス計画はどこまでを目的とした計画なのか。

●アルテミス計画は、月面での持続的な活動を目的としている。

○産業面や人材面も含めて、さらに具体的かつ長期的な視野に立った検討も重要ではないか。

○宇宙でのロジスティクス拡大に向けて、月の水資源の調査や物資・燃料補給技術の検討が必要。国際連携の中で、日本が主導する技術分野を明確化していくことが重要である。

●産業面も含めたより具体的かつ長期的な取組については、今後の基本計画改訂に向けた議論の中で引き続き検討していく。

(2) 「宇宙基本計画工程表改訂に向けた検討状況」について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見)

○民生利用の一層の拡大に向けて、さらに取組を強化する必要。特に、非宇宙分野からの参入を促す

ため、ロケットや衛星といった供給面だけでなく、利用面でのマイルストーンを設定し、利用側の予見性を高める取組が重要である。

○宇宙政策の課題には、直近取り組むべき事項と、中長期的な視野で取り組むべき事項があるので、工程表改訂の作業と基本計画改訂作業において、しっかり役割分担をしながら検討することが重要である。

(3)「基本政策部会の検討状況」について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見)

○特に、大企業とベンチャー企業の間、あるいは JAXA 内や JAXA と民間の間などの人材の再配置が大きな課題であるので、人材面での課題に政策的にどう取り組むかが重要である。

以上